

平成30年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉大津 市議会
報告者	議長 林 哲二 副議長 池辺 貢三 事務局長 松下 良
視察日時	平成30年 7月18日 (水) 14:00~15:30 / 15:30~16:15
視察先	鹿児島県 霧島市
概 要	<p>議会改革の取組（無線LAN整備・住民参加等）について</p> <p>（無線LAN整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年9月から初めてタブレットを導入し、平成29年11月からタブレットの更新時期に合わせて議会棟全体に無線LAN整備を行っている。 ・タブレットの導入はペーパーレス化を目的としたものではなく、あくまでもスムーズな議会運営、議員や理事者にも分かりやすく、何より傍聴者に分かりやすくする点が重要視されている。 <p>（住民参加等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度から6回実施した議会報告会は不評であったため、意見交換会に転換し、1人でも多くの市民から意見を聞くため、班ごとに分けて内容の濃い意見交換ができるようになった。また、名称を親しみやすい「議員と語るかい」に変更している。 ・意見交換会で検討が必要な意見が出れば、各常任委員会で調査・研究を行い、必要に応じて所管事務調査を実施し、調査結果は委員長報告を行うとともに、市議会ホームページや議会だよりへ掲載するなどの取組を行っている。 ・議会だよりは全頁カラーで非常に見やすく、各議員の一般質問の箇所には本人写真がカラーで添付され、さらにQRコードもつけられており、スマートフォン等でそれを読み込むと各議員の一般質問の動画へ繋がりが容易に視聴できるシステムになっている。
	<p>議場見学（タブレット採決等のデモンストレーション）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議場には傍聴者にも見やすいように全部で6つのテレビモニターが多方向に据え付けられており、質問等でも内容を映し出すことにより、格段のわかりやすさであった。 ・採決結果のモニター表示は賛否の色分等により、傍聴者も瞬時に見分けることができるように工夫されていた。

所 見

議会改革の取組（無線LAN整備・住民参加等）について

（無線LAN整備）

・タブレットの更新時期を適切に判断することは困難であると思うが、他の先進都市の事例なども踏まえ、幅広く調査・研究する必要があると感じた。
・本市では、ペーパーレス化による経費削減や効率化の面も重要であると考えおり、今後の重要課題の一つである。

（住民参加等）

・意見交換会では議員個人の意見が述べられるように変更することや、市内をくまなく巡回するような開催場所の検討など、創意工夫により、以前まで不評であった意見交換会が好評につながっており、本市においても、従前からの意見交換会のあり方に加え、議会発信の意見交換会を実施するなど、その都度の見直し等により、充実した意見交換会の開催に繋げていきたい。
・議会だよりへのQRコードの添付は、市民にとって分かりやすいサービスで、素晴らしい工夫だと感じた。スマートフォン等を持つ人が増えている状況の中、わざわざパソコンを開かなくても、簡単に一般質問を動画で視聴ことができ、開かれた議会として身近に感じてもらうことができると思われる。また、議会だよりを見やすくする工夫については取り入れることができる部分もあるので、早急に検討したい。

議場見学（タブレット採決等のデモンストレーション）

・議場での採決と、一般質問時の傍聴者、理事者に対してのわかりやすさが際だっていると感じた。また、電子採決や持込み資料のモニター表示など、タブレットの活用範囲の拡大こそが、さらに開かれた議会への取組につながるものであると確信した。
・モニター等が十分に整備されていたが、設備投資に多額の経費を充てることが難しい本市にとって、市民に親しまれるような議場づくりに向け、知恵と工夫を重ねて進めていきたい。

平成30年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉大津 市議会
報告者	議長 林 哲二 副議長 池辺 貢三 事務局長 松下 良
視察日時	平成30年 7月19日 (木) 10:30~12:00 / 13:30~14:30
視察先	宮崎県 都城市
概 要	<p>ふるさと納税の取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本格的な取組は平成26年10月からで、組織機構の新設等により、ふるさと産業推進局が中心となって、地元産品として有名な焼酎（黒霧島）と肉（宮崎牛）に特化し、さまざまな広報活動（テレビ、広告等）を全国規模で開始した。その結果、寄付金額は平成26年は5億円であったが、平成27年は42億円で全国1位、そして、平成28年度は73億円で2年連続全国1位となっている。 ・ふるさと納税は、毎年11月～12月にかけて寄付件数が伸び、1月からは税金処理の事務等が繁雑になるため、それまで直営で行っていた事務を民間委託（テレコール）に変更することで、相乗効果として50人以上の雇用を創出している。 ・ふるさと納税として得た財源は、一度、ふるさと応援基金として積み立て、次年度に取り崩して指定された予算に充当しているが、安易に新規事業を立ち上げたり、新たな公共施設を建てるといったことには一切使わず、既存の事業の前倒しや拡充、または廃止となった事業の復活などに充てている。
	<p>施設見学（中心市街地中核施設「Mallmall（まるまる）」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設内の図書館は、撤退した商業モールの跡地をリノベーションして整備され、旧図書館に比べ面積は3倍あり、カフェも併設し、光をふんだんに取り入れた新感覚の図書館で、来場者数は旧図書館が1年間で17万人だったのに対し、開館以来の80日間で既に30万人という驚異的な数字をはじき出している。 ・指定管理者を選ぶ段階で、実績がある業者を選べば、それなりに安定しているというメリットはあるが、他の図書館とあまり目立った変化のない無難な図書館になるので、図書館を手がけてこなかった新しい発想の業者に任せた方が、他とは違うオンリーワンのオリジナル図書館ができると考え、安定よりチャレンジを選んだとの説明があった。

所 見

ふるさと納税の取組について

- ・本取組の効果として、寄付金額が増加したことよりも、全国的に都城市の知名度が上がったことを市長が最重要視していることや産業界を巻き込んで相互に知恵を出し合い、オール都城として取り組めていることに感心させられ、この事業を成功に導くための最大のヒントを得ることができた。
- ・酒造会社と包括連携協定を締結し、PRができる地域資源が豊富にあるなど、本市との違いを痛感させられたが、本市においてもふるさと納税に力を入れて取り組んでおり、都城市のように三方よしの取組にするため、地元産品を活用して地域の活性化に力を入れていく必要があると感じた。
- ・市の組織を横断して取り組むことで職員のモチベーションも高まっていることが、担当者の自信に満ち溢れる説明などからも見て取れ、一つの施策事業の成功が職員だけでなく市政にも意識改革をもたらした好事例であることがよく理解できた。

施設見学（中心市街地中核施設「Mallmall（まるまる）」）

- ・今までに全国で多くの図書館を視察したが、この図書館は見たことのない異次元空間的なものを感じることができ、実績のない指定管理者に運営を委ねることにより、民間の知恵を積極的に取り入れて、これまでにない思い切ったチャレンジを行った都城市の担当職員の英断に感心するとともに、行政職員のこのような転換期や好機での判断を支援していく必要があると強く感じた。
- ・本市では市立図書館の移転整備計画を進めているところであり、多くのヒントをこの図書館で発見することができ、今後本市で取り入れることができる場所は積極的に取り入れてもらいたいと考える。
- ・子育て世代活動支援センターも開設されて賑わっていたが、本市においても図書館の移転にあわせて他の取組ができないか、今後も調査研究することが必要であると感じた。